

第3回 ペーパン川・倉沼川災害対策連絡協議会 議事概要

日 時	平成30年12月2日(日) 12:30~13:30
場 所	上川総合振興局 1階 101会議室
出席者	ペーパン川・倉沼川災害対策連絡協議会開催要領 構成員一覧表を参照
説明者	事務局 上川総合振興局 旭川建設管理部 事業室長 関 俊一 産業振興部長 山下 満

1 開 会

2 挨 拶

3 出席者紹介

4 議 事

- (1) ペーパン川流域の災害復旧と今後の対応等について
- (2) 倉沼川流域の災害復旧と今後の対応等について
 - 資料1、資料2について説明(旭川建設管理部 関事業室長)
 - 資料3について説明(上川総合振興局 山下産業振興部長)

(3) 意見交換

【災害復旧・河川整備等の方針について】

(質問・意見)

- ・ペーパン川沿川の地権者82名全員の起工承諾を得られ、工事が着工されることとなった。事業が円滑に実施されるよう、今後も事業費の充実に頑張ってほしい。
- ・今回の計画区間外である深草橋上流からペーパンダムまでの区間についても早急にご検討いただき、一連で整備を行っていただけるようお願いしたい。

(質問・意見)

- ・ペーパン川の工事完成までの4年間は不安な状況が続くこととなる。今後とも、工事がスムーズに進むようにご協力をお願いしたい。

(質問・意見)

- ・東川町の農地災害について、来年から営農できるよう工事が完了していただけることに感謝する。今後とも様々な面でご支援をお願いする。

(事務局回答等)

- ・機能向上を図る復旧工法について、国交省との協議に時間がかかったが、皆様のご支援に感謝したい。今回の事業が採択されたのは、協議会に参加していただいた方々が、地域をまとめてくださったためだと思っている。
- ・工事に際しては色々にご迷惑ご不便をかけると思うが、ご理解・ご協力いただきたい。

(事務局回答等)

- ・旭川市、東川町には地元と連携していただいたことに感謝する。
- ・来年の営農に向けてしっかり事業を進めていくことが大事だが、水田の状況が今年と来年では異なることが想定されるので、農業改良復旧センターから技術的な指導を受けながら、実りの多いものとしていきたい。

(質問・意見)

- ・専門家によると、「倉敷の小田川等の氾濫においては、予想できる箇所が予想通りに氾濫しており、予想できたのに対処できなかったのは、限られた財源の中で資金を捻出するのが難しいためである。」とのこと。
- ・北海道全体が、今回の災害を契機にどのような教訓を得て、対処していくかを考えなければならないし、治水事業に対する予算をどのようにしていかなければならないのかを改めて考える必要がある。

(質問・意見)

- ・西日本とともにペーパン川も大雨激甚災害の指定を受けることができたのは、発災後すぐに地域の声を聞き、行動できたためだと思っている。胆振東部地震においても、この経験を生かすことができた。
- ・今後、どのように予算を確保しながら整備を進め、維持管理していくか、しっかり取り組んでいかなければならない課題である。

【今後の検討課題等】

(質問・意見)

- ・稲刈りが終わった水田を見てみると、畔下を削られた箇所がそのままになっている箇所がある。その状況についてとりまとめ、部会で議論していきたい。
- ・河道掘削の残土を、棚田の低いところの地上げに活用し、大きな一枚田にするなど圃場整備に使用できないか。同時並行で進めることが可能か、検討していただきたい。

(事務局回答)

- ・基盤整備については、地域の方々と相談しつつ進めていきたい。
- ・十勝の災害復旧では河川の残土を使用した事例があり、今後調整させていただきたい。

(質問・意見)

- ・12月にペーパン川沿川の基盤整備に関する住民説明会があるので、その際に説明・相談する予定。

(質問・意見)

- ・ペーパン川、倉沼川の下流部の改修は終わっているが、繁茂した河道内樹木の処理も行っていたきたい。

(事務局回答)

- ・積極的に樹木伐採と有効活用を進めていきたい。

(質問・意見)

- ・協議会という形をとり意見交換しながら、地域理解を得ていくのは有効だったと思う。
- ・今後、開発建設部や気象台の災害対応のノウハウも使って、気象情報にあわせた出水の予測と対応、情報の伝達など連携強化が行われていけばと思う。
- ・災害対応に迅速に地域に寄り添って対応していくかが重要である。
- ・ペーパン川、倉沼川沿川で生産している道産米の品質が守られるよう、国、道、市町村と連携しながら、取り組んでいきたい。

5 今後のスケジュール

○資料4について説明（旭川建設管理部 関事業室長）

6 閉会